特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

本部事務所
〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F
TEL 0847-89-0885　FAX 0847-82-2949

東京事務所
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-19 ツボヤビル2F
TEL 03-5213-4070　FAX 03-3556-5771

E-mail meet@peace-winds.org
www.peace-winds.org

ピースウィンズ・ジャパン　@PeaceWindsJapan

年次報告書
2013

2013/2/1-2014/1/31

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

2013年度の歩み

2013年度も、たくさんの方々にご支援いただき、ありがとうございました。
1996年の設立以来「必要な人々に、必要な支援を」という思いを掲げ、
支援が届きにくい場所にも迅速、かつ継続的に支援を行っています。

キヤノンマーケティングジャパン
株式会社と共同で、
東日本大震災復興支援の一環として
写真展「みんなの笑顔プロジェクト～
Smile for the Future～」を仙台で開催。
アルバム紹介サイトがオープンしました。

•広島県神石高原町に
犬の保護事業のための新犬舎が完成
•「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトの
ホームページが開設

•中国四川省での四川地震被災者支援
•4月20～21日、代々木公園での
「アースデイ東京2013」に出展
•通常総会で2012年度の
事業報告・決算を承認

•ミャンマーのカレン州で
帰還支援を開始
•2013年度の
NGO相談員を受嘱

•シリア紛争人道支援を
開始
•大西代表理事が
「第1回 G1・KIBOW
社会起業家アワード」を
受賞

ワンだふるサポーター
コーヒーサポーター
募集開始

•広島県の犬の殺処分ゼロを目指す
「1000日計画」キックオフ
•9月19日、マツダスタジアム
外野グラウンドにて保護犬パレード
•東ティモールのEXPOに
ピースコーヒーのブースを出展

•フィリピンのルソン島での
洪水支援
•8月3日、国連大学で開催された
「シリア危機シンポジウム」に
イラク駐在スタッフの深川が登壇
•8月5日、ボーイスカウト日本連盟と
支援協定締結

•PWJ本部を
広島県神石高原町に移転
•10月22日
東北6県の職人を対象とした
伝統工芸品披露会を
東京・代官山にて開催
•陸前高田市広田町の
震災記録誌が完成

•10月5～6日、日比谷公園で開催された
「グローバルフェスタ2013」に出展
•子会社の「株式会社グレイスストーン」を
設立

•12月12～14日
東京ビッグサイトでの
「エコプロダクツ2013」に出展
•12月18日
シリア難民問題をテーマにした
チャリティーイベント
「シリアCafe」を開催
•南スーダンで
軍事衝突が発生し、
スタッフ国外退避

•フィリピン台風30号
緊急支援を開始
•スタジオジブリ作品
「かぐや姫の物語」
東北特別上映会

•神石高原町で
スタッフ全体会議
•フィリピン台風の被災地で
住居修復キットの
配布事業開始
•理事会で2014年度の
事業計画・予算を承認

2013 2月 >>>>> 3月 >>>>> 4月 >>>>> 5月 >>>>> 6月 >>>>> 7月 >>>>> 8月 >>>>> 9月 >>>>> 10月 >>>>> 11月 >>>>> 12月 >>>>> 1月 2014

四川地震
4月20日、中華人民共和国の南西部に位置する四川省雅安市蘆山県でマグニチュード7の地震が発生。3日後の4月23日時点で被災者数190万人、死者数も193人にのぼることが判明。

カレン州帰還支援
ミャンマーの民主化にともない、隣国タイなどの難民キャンプからカレン州に帰還する人びとのための支援が必要とされている。生活環境の整備などが進められている。

NGO相談員制度
外務省の委託により、NGOの国際協力活動、組織の管理・運営などの相談に対応する制度。

シリア紛争人道支援
内戦が続くシリアからイラクへ逃れてきた難民の支援を続行。キャンプ内での食料配布と仮設小学校の建設など。

第1回 G1・KIBOW 社会起業家アワード
2013年2月に福島県で開催された「G1サミット2013」にて提起。日本、世界で活躍する社会起業家を顕彰する賞。

ワンだふるサポーター
災害救助犬の育成や、殺処分ゼロをめざす犬の保護事業を継続的に支援する制度。月々1,000円からの寄付が可能。

コーヒーサポーター
東ティモールの唯一の換金作物であるコーヒーの生産者への支援で、月々500円からの寄付が可能。

フィリピン・ルソン島洪水
台風により北ルソン島東方では約9万世帯、マニラ郊外では約40万世帯が被災。

公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟と 支援協定締結
南海トラフ大地震など国内大規模災害時の被災者支援を想定し、連携を図ることを目的に支援協定を締結した。

フィリピン台風30号
11月8日フィリピン中部に台風が上陸し、6,000人以上が犠牲になった。

「かぐや姫の物語」 特別上映会
「かぐや姫の物語」の映画公開に合わせ、スタジオジブリなどの協力で宮城県南三陸町など被災地4ヵ所で特別上映会を開催。約1,500人が来場。

社会変革

ピースウィンズ・ジャパン代表理事・大西 健丞

世界中でさまざまな支援を続けているピースウィンズ・ジャパン代表理事・大西 健丞。
どんなビジョンをもって2014年度に取り組んでいるのか、考え方や思いなどについて話を聞いた。

新しい使命をみつけないと我々は消える

ーここ数年、これまでの海外での支援に加えて日本での活動など、事業の幅が広がってますが、軸足が移動したのですか?

国内でNGOやNPOがどういう所で役に立つか、多少可能性があるところをいろいろ探索しています。もともとアメリカやヨーロッパの一部のように、民間団体に公益を担わせようという発想は、80年代くらいから国際的にはありました。一方、国内では公益を誰が担うのかというと、やっぱり役所だろうというのが大半でした。しかし今回、本部事務所や生活拠点を広島県神石高原町に移し、そこで生活していく中で、お役に立てるんじゃないかと思ったのです。過疎地にいると20~30年先の日本がよくわかります。高齢化社会の中で、その問題を解決するような経験を積んでおくということはすごく大事だと思っています。新しい使命をみつけないと我々は消えるので。そういう意味で、国内での活動を増やしていき、国際と国内、半々くらいになったらいいなと思います。

自分達のコミュニティは自分達でなんとかよくする

ー地域おこしというか、過疎化を止めていくということですか?

過疎化は進みますし、地域もどんどん廃れていくと思います。ただ、人や土地に力があれば、そこは生かしようがある。色んなバージョンがあると思いますが、すべてがコンパクトシティ化する必要はない。可能性を見つけてほかと繋げることによって、首都に固執する発想を砕いてトレンドを作り直すということが必要だと思います。僕らの一番大きな目的は、普通の人達が「自分達のコミュニティは自分達でなんとかよくしよう」と発想し、そこから色んなスキルが身に付いたり、資金循環が出来たりすることです。それは今までの国際活動でも目指してきたことです。

命があればそれでいい

ー常に攻め込んでいくことに怯まないですよね。

そもそも僕は人道支援だけをしているつもりはなく、世の中を変革したいという気持ちでやっています。20歳の時に父が倒れ、ひとが死ぬことのリアリティに直面しました。その後、大学院で紛争解決を学びましたが、偉い先生はだれも現場を見ていないことに気づき、それなら見てやろうと、一人、トルコとイラクの国境線を越えて、クルディスタンに入りました。そこで一番驚いたのは、イギリスのNGOが国連よりも立派に仕事していたということ。質も量も全然違った。少しでもそこに近づきたいと思いました。青春時代はずっと戦場でしたよ。砲弾がすぐ近くで爆発したり、車が被弾したりといったきわどい経験も何度となくしました。社会人デビューがイラクなので、命があればそれでいいという考えになりました。だから、戦争に行ったことのあるおじいさんと話が合います。死ぬ以外のリスクはリスクじゃないので。

イラク国内のシリア難民キャンプにて

法律を変えるのは決して役所の独占ではない

ー国際的な枠組み作りにも力を入れているようですが。

いまアジア太平洋地域の災害対応を目的とした、新しい国際機関を作っています。そこと連携してピースウィンズの活躍の場も広がると思います。ビジネス部門や政府部門を含めた、官僚的でない国際機関ですが、日本政府もこの考え方を後押しし、3億円支援してくれました。たとえば日本が被災した場合は、アジア中から資材も資金も提供していただける。従来の海外援助だと一方通行ですが、この取り組みは相互扶助なので、アジアの新しいタイプの構造になります。社会をより良くするための制度や仕組みづくり、場合によっては法律を変えることも、決して役所の独占ではありません。

神石高原町にてレスキューチームと

僕らは常に自分のことを主張できないひとの側にいる

ー犬の殺処分ゼロをめざす活動にも取り組んでいますね。

広島県だけで年に7,000頭以上の犬や猫が自治体の施設で殺処分されています。炭酸ガスで窒息させ、死にきれない個体もそのまま焼却炉に放り込みます。その実態を知って、先進国といわれる日本でこんなことをやっているのかと絶句しました。施設の名前は動物愛護センターですが、広島の場合、収容された犬の7割以上、猫の9割以上は殺処分です。譲渡に努力しているといいますが、山奥にありますし、土日は休んでいます。これでは譲渡が進むはずはありません。つまり、犬猫の保護という仕事は、役所には向いていないのです。

海外の難民支援でも、僕らは常に、自分のことを主張できない者の側に立って働いてきました。主張できないという点は殺処分される犬も同じなので、犬のためにがんばろうと決めました。2014年4月末までに233頭を保護して、100頭を譲渡・返還し、いまお預かりしているのが約130頭。民間の力で犬や猫のシェルターをもっと広げていけば、ドイツのように殺処分はほぼなくなると思うのです。殺処分全国ワーストを記録した広島県で成功したら、そのモデルはほかでも使えるでしょう。

動物の命を見捨てる社会は、人間の命も大切にしません。たとえば原発事故のときも、官房長官が「直ちに健康に影響はない」と言っていたけれど、格納容器ごと吹っ飛んでいたら確実に死者は出ていたわけで、直ちに避難させるべきだったのです。でもさせなかった。あれを見て、今の日本の政府は命を第一に考えないのだと思いました。これでは後進国といわれても仕方がない。

犬や猫のことに限らず、役所に任せていてはうまくいかないこと、解決できない問題が増えています。これまでとは全然違った公益の担い手や、メディアが登場してくる必要がある。今まで官僚が独占していた政策づくりにも、NGOが割って入る可能性が出てきているし、そういう社会を構築していかなければならないと思います。役所から仕事を奪い取るぐらいの気概で、常にチャレンジしていくつもりです。

（インタビュー・構成:サステナ）

現場を支える支援のプロ

ピースウィンズ・ジャパン スタッフインタビュー

希望に満ち、だれもが尊厳を持って生きられる平和な世界のために。
世界各地で、現地の人と力をあわせて活動しています。

北原　聡子（ミャンマー駐在）：2001年モントレー国際大学院卒業。多数の人道支援団体での活動を経て、2010年ハイチ大地震緊急支援より、ピースウィンズ・ジャパンで活動を開始。ハイチ、ケニア駐在を経て、現在ミャンマーにて現場責任者として井戸建設業務などを行っている。

人々の生活が良くなる、それを体感できる現場
― ミャンマー駐在 北原 聡子

支援地の村人から花をもらう北原

さまざまな分野の人道支援に携わり、紛争地域で女子校建設に取り組んでいたこともある北原。現在の活動や人道支援に携わり始めたいきさつを聞いた。

「毎朝、朝日が昇り始める5時半ごろ、同僚と散歩に出ます。道中の花々やバナナ、マンゴーの実がなった木は、毎日目にしていてもいつも新しい発見があります。人々は親切で思いやりがあり、古き良き伝統が根付く素朴な国で、何十年にもわたる民族紛争を経験しているとは思えないほど、平和な印象を受けます」。現在の駐在地であるミャンマーについてそう話す。

北原が駐在するカレン州で、“安全な水”を利用できるのは人口の半分のみだ。そこで、北原たちは、安全な水を提供することで難民や国内避難民がもともと住んでいた地域に帰還するのを促そうと、井戸を建設・修繕している。「住民の代表者と話し合い、ニーズが高いと判断した村を事業地に選び、村の状況に合わせて井戸の種類や位置を選びます。井戸がすでにある村では、水質を改善するための設備の必要性を調査し、業者と二人三脚で工事を進めます。それと同時に、村の住民を対象に、水や食物を衛生的に保つ方法などを教える講習も実施しています。住民との対話、建設業者との連絡、地方政府との折衝などには現地スタッフが大活躍です」。北原は現地スタッフとの関係も大切にしている。

ミャンマー駐在になり、一番困ったことは言葉の壁だったという。「現地の言葉は文字も数字も想像を超える記号の羅列に見え、自分が無力に感じました。当初、現地スタッフの半分以上は全く英語が通じず、コミュニケーションに苦労しました」と振り返る。しかし、今では現地スタッフと英語で冗談を言い合える仲となり、結婚パーティーにも出席する。また、駐在先の伝統衣服を収集する北原は、ミャンマー人が毎日着ている伝統的な腰巻「ロンジー」も早速買い集め、駐在半年を経て、ようやく着こなせるようになったという。

現地スタッフの結婚パーティーにて

北原が人道支援の仕事につくきっかけは、とても些細なことだった。「最初の職場であった英会話学校の掲示板に“英語でボランティアをしませんか?”というポスターを目にしたのが運命でした。その後、赤十字の人道支援活動に感銘を受け、人道支援に携わりたいと思うようになりました」。2010年にハイチで大地震が発生した際、当時ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）に勤務していた友人に声を掛けられ、PWJで活動するようになった。

「受益者の方々と触れ合いながら、人々の生活環境が良くなっていく過程に関われることに一番喜びを感じます。だから、その喜びを体感できる現場が好きです。日本が恋しくなったりはしませんが、帰る場所があるという安心感が、日々の活動の原動力の一つであり、また精神的なセーフティーネットになっているかもしれません」と現場での活動のやりがいを語った。まだ立ち上がったばかりのミャンマー事業の今後の目標は、“ピースウィンズ・カラー”を確立すること。「井戸を建設する団体はいくつかありますが、PWJならではの特色を確立したいです」。北原は、支援者の思いと現地の人々の橋渡し役として、今日も活動を続けている。

生きたくても生きられない命の為に
― 「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトスタッフ 安倍 誠

北海道での乗馬インストラクター時代

乗馬のインストラクターという経歴を持ち、2013年12月、PWJが運営する「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトのスタッフになった安倍。長年、動物と関わる仕事をしてきた安倍ならではの、動物たちへの思いを聞いた。

「とある日、動物愛護センターで犬の殺処分の現場を見る機会がありました。実際にそんな現場を見てしまったら、生涯この問題から逃げることはできません。ペットの殺処分は、私たち人間の身勝手さが生み出した残酷な社会問題なんです」。犬の保護という仕事に取り組み始めたきっかけを、安倍はそう語る。

前職でも重い経験があった。乗馬のインストラクターとして北海道の牧場で働いていたとき、「可愛がっている馬が、処分に近い形で、自分の腕の中で亡くなったことがありました。その時、最後まで必死に生きたいと訴える馬の気持ちが強く伝わりました」。安倍は、処分という決定に対して何もできなかった自分への情けなさと、今まで好き勝手に生きてきた後ろめたさで恥ずかしくなったという。「生きているだけで十分幸せなんです。それから僕は、残りの人生を、生きたくても生きることが出来ない弱い立場の命のために捧げていこうと決めました」。

その後、安倍は一旦馬の仕事を辞め、国内各地で動物保護に取り組む団体や個人を訪問し、ボランティアとして活動に参加した。そんな中、殺処分ゼロをめざして社会を変える挑戦をしているPWJの存在を知った。「PWJのことは国際協力NGOとして知っていましたが、難民や被災者だけでなく、動物の分野にまで支援の幅を広げていると知った時、出来る限り弱い立場の命に目を向けている団体なんだと感じ、純粋に嬉しさがこみ上げてきました」。

安倍は現在、主に野良犬や飼い主に捨てられた犬たちを保護・飼育する活動に取り組んでいる。また、広島市の商業施設に新設した譲渡センターで保護犬と新たな飼い主を引き合わせる活動や、犬の飼い主に適切な飼い方を伝える啓発活動にも力を入れている。

「目標は殺処分をゼロにすることです。そのためには、同じ使命を持って保護活動を行う個人や団体が協力しあえる環境をつくり、人々を繋げることが必要だと考えています。犬猫を年間16万匹以上処分する現状は、人間以外の命に対する一種の差別です。その差別をなくすことは、人種差別や性差別の撤廃と同じくらい大きな価値があることだと思います。多くの人々と協力できれば、必ず解決できると思っています」

譲渡センターにてPWJの仲間と一緒に。

安倍　誠（「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトスタッフ）：2007年札幌大学経済学部経済学科卒業後、食品製造販売会社にて営業職。その後、出身地・北海道で乗馬インストラクター業務や馬の繁殖・育成業務に従事。2013年12月、ピースウィンズ・ジャパンに入団。

2013年度の活動一覧

2013年度は11ヵ国、計12地域で活動し、
受益者数は、およそ10万人＋2万7,000世帯におよびました。

■ これまでに活動した地域
■ 2013年度に活動した地域

開発支援／シリア難民支援

帰還民再定住支援

イラク
IRAQ

南スーダン
SOUTH SUDAN

ソマリア難民支援

ケニア
KENYA

アフガニスタン
AFGHANISTAN
復興支援

モンゴル
MONGOLIA
教育・子ども支援

中国
CHINA
復興支援

ミャンマー
MYANMAR
難民帰還促進支援

フィリピン
PHILIPPINES
台風30号被災者支援
国内避難民支援・洪水被災者支援

スリランカ
SRI LANKA

帰還民再定住支援

東ティモール
EAST TIMOR
地域開発支援

東北復興支援

東北

神石高原町

地域活性化支援

2013年度の支援事業一覧

イラク			実施場所	受益者
開発支援	インフラ整備	小学校の建設・増築・修復	アルビル州・ドホーク州 ニナワ州アクレ郡	2,675人
		学校運営能力向上トレーニング	ドホーク州	150人
シリア難民支援	食料配布	新規難民世帯および 脆弱性の高い難民世帯への食料配布	ドホーク州・アルビル州 ニナワ州アクレ郡	7,500世帯
	雇用支援	ドミズ難民キャンプにおける シリア難民への就労機会の提供	ドホーク州ドホーク市	143人
	教育支援	教育環境整備	ドホーク州・アルビル州	7,430人
		就学児童用冬用コート配布	ドホーク州・アルビル州・ニナワ州	5,997人
	住環境整備	シェルター・衛生施設整備	ドホーク州	2,904人

南スーダン			実施場所	受益者
帰還民再定住支援	水・衛生	井戸建設及び衛生・井戸管理研修	ジョングレイ州	5,009人
		トイレ建設・衛生研修		500人
	インフラ整備	診療所・学校建設		32,009人

ケニア			実施場所	受益者
ソマリア難民支援	インフラ整備	仮設住宅の建設	ダダーブ難民キャンプ	2,670世帯
		家庭用簡易トイレの建設		1,400世帯

アフガニスタン			実施場所	受益者
復興支援	能力強化支援	NGO能力強化トレーニング	アフガニスタン全土	2,227人

東ティモール		実施場所	受益者
地域開発支援	コーヒー生産者自立支援	エルメラ県・リキサ県	798世帯

スリランカ			実施場所	受益者
帰還民再定住支援	インフラ整備	貯水池修復	トリンコマレ県	422世帯
	酪農支援	酪農家の収入向上のための飼養研修		182世帯

フィリピン			実施場所	受益者
台風30号被災者支援	食料・生活物資・住居修復資材配付		サマール島・レイテ島	5,690世帯
国内避難民支援	食料配布		ミンダナオ島南部	6,988世帯
洪水被災者支援	食料配布		ルソン島	1,550世帯

日本			実施場所	受益者
東北復興支援	コミュニティ支援	高齢者等の活動拠点づくり 課外講座開催・地域交流イベント開催 救急搬送ヘリコプターの立ち上げ支援 （格納庫・資機材の提供） 福島県移住者支援	宮城県南三陸町 宮城県気仙沼市 福島県相双地域	地域住民 不特定多数
	地域防災 向上支援	震災記録誌の製作 防犯用ソーラー街灯の設置	岩手県陸前高田市 福島県浪江町・宮城県南三陸町	
	漁協支援	カキ処理場防風ネット・防寒具 アワビ用漁具・街灯などの備品提供	宮城県南三陸町	
	生計支援	伝統工芸職人のネットワーク支援 地元産品の販売・レストラン建設	東北6県 宮城県気仙沼市唐桑町	
	被災犬猫支援	被災した犬や猫の保護	福島県・広島県	
地域活性化支援	災害救助犬・セラピー犬の育成		広島県神石高原町	N/A
	捨て犬等の保護・譲渡			N/A
	観光振興・まちづくり			N/A

モンゴル		実施場所	受益者
教育・子ども支援	貧困家庭の子どもの自立支援	ウランバートル市	3人

ミャンマー			実施場所	受益者
難民帰還促進支援	水・衛生	井戸建設及び衛生知識向上研修	カレン州	9,000人

中国			実施場所	受益者
復興支援	水・衛生	学校教材及び備品の配布	四川省雅安市	26,792人

受益者数の算出について：村でのインフラ整備など、事業実施地域全体が対象となる支援については、その地域の人口を受益者数としています。

活動報告

IRAQ イラク

シリア難民にこれからも支援の手を

2012年に引き続き、内戦が続くシリアから逃れてきた難民の支援を、イラク北部にある6つのキャンプを中心に行いました。特に、短期間で6万人以上のシリア難民が流入した2013年8月以降、食料や教育機会の確保が課題になったことから、7,500世帯を対象に食料を配布するとともに、キャンプ内外で仮設小学校計11校の建設または増築を行いました。さらに、難民が就労の機会を得られるように雇用主とのマッチングを行い、143人の雇用につなげたほか、厳しい寒さに備え、約6,000人の子どもたちに冬用のコートを配りました。
シリア難民支援と並行して続けているクルド人自治区の教育支援では、2012年から取り組んできた小学校7校の改築が2013年5月に完了。新たに3校の建築・修復・増築を手がけるとともに、自治区教育省の要請を受け、自治区内初の試みとして校長・副校長先生の学校運営能力を高める研修事業を行いました。

現地から

学校運営能力向上のための研修に参加して
サイード・モハメド校長先生（30歳）

研修を通して、教育に対する考え方ががらりと変わりました。
以前は、成績がふるわない生徒のことは、なかば諦めてしまっていました。ですが、今回のトレーニングを通して、もともと勉強のできない子どもなどいないということを確信しました。
生徒一人一人の関心は違いますが、能力に優劣などありません。生徒の成績がふるわないのは、他ならぬ私たち教師の責任なのです。今後は、この研修で身に付けたスキルを活かして、すべての生徒の学習を手助けしていこうと思います。

SOUTH SUDAN 南スーダン

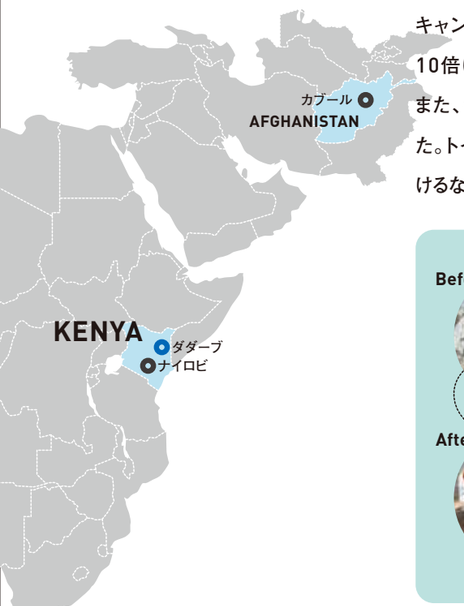
2006年から掘った井戸、211本！

ジョングレイ州アユッド、ウロール、ファンガック郡で新たに21本の井戸を完成させ、2006年から建設してきた井戸の総数は211本となりました。帰還民が多いアユッド郡ジエッチでは、テント式で衛生レベルが十分ではなかった村唯一の診療所に、しっかりした構造の新棟を建設し、小学校、トイレも1棟ずつ建設しました。
2013年12月の軍内部の抗争に端を発した軍事衝突は、南スーダン全土に広がり、PWJが事務所を置いていたジョングレイ州都のボーも戦火に巻き込まれました。日本人スタッフ全員が国外に退避する事態になりましたが、2014年度は隣国ケニアのナイロビを拠点に、国内避難民キャンプで暮らす人々への支援を開始しています。

現地から

ファンガック郡で井戸を管理する水管理委員会メンバー
ローザ・アレウさん

身近な場所に井戸ができて本当に良かったです。
井戸ができるまで、私たちはみんな近くの川の水を、生活水として飲んでいました。健康に良くないことは知っていましたが、それ以外の手段がありませんでした。近くに井戸ができ、今ではみんなが飲み水や料理などに井戸の水を使っています。一番良かったことは、以前は慢性的だった下痢が少なくなったことです。井戸が私たちの生活を変えてくれました。私は水管理委員会の一員として、この井戸の管理を続けていきたいです。



KENYA ケニア

仮設住宅建設と衛生環境の改善を

干ばつと治安の悪化によって、隣国ソマリアから多数の難民が流れ込んだダダーブ難民キャンプで、2012年に引き続き仮設住宅の建設に取り組みました。2013年度は前年の約10倍にあたる2,670戸を新たに完成させました。
また、キャンプ内の衛生環境をよくするため、1,400基の家庭用の簡易トイレを建設しました。トイレの壁となる鉄板が倒れないように木材で補強し、ドアの内側には頑丈な鍵を取り付けるなど、利用者の安全に配慮した工夫を施し、地元の住民や難民とも協力して建設しました。

Before

After

現地から

女手一つ、子ども10人と仮設住宅でくらす
ファトゥマさん

ファトゥマさんは、2011年にソマリアで起きた干ばつから逃れるため、ダダーブ難民キャンプに避難してきました。
「女手一つで10人の子どもを養っています。仮設住宅の前は、簡素なドーム型の小屋に住んでいましたが、居住空間も十分ではなく、夜はみんな隣り合わせで寝ている状況でした。今は仮設住宅にてゆとりあるスペースの中で暮らしています」。

AFGHANISTAN アフガニスタン

市民社会の強化をめざした事業に、日本の3つの団体と連携して取り組みました。3年計画の初年度となった2013年は、代表的な2つのNGOネットワーク組織の来日研修をはじめ、5月にはNGO法、税法などを学ぶ研修を実施、延べ50人以上が参加しました。

SRI LANKA スリランカ

生計安定の仕組みづくりを

内戦が終結した2009年から取り組んでいる、避難民キャンプから故郷へ帰還した人々の生活再建支援を、東部トリンコマレ県で続けました。稲作に欠かせない貯水池8カ所を修復したほか、農業技術の研修、落花生やトウモロコシをはじめとする換金作物の種の配布などを通じて、農家の収入向上を支えました。
5つの村の酪農組合と協力し、酪農家に良質な乳牛などを貸与する支援も続けました。そのなかで特に力を入れたのが、現地の農家や組合が主体となり、長期にわたって生計を安定させるための仕組みづくりです。その一環として、組合の運営能力を高めるために会計処理などの研修を行ったほか、牛乳を加工してアイスクリームやヨーグルトなどの乳製品をつくる技術研修にも取り組みました。

現地から

貯水池を管理するイラッカキャンディ農業組合の組合長
サリームさん

昨年の雨季は、ほとんど雨が降らず、例年の半分以下の米しか収穫できませんでした。
今年は、PWJが修復してくれた貯水池に、わずかに降った雨水を溜めることができ、その水を使った田んぼでは例年並みの収穫ができました。
また、これまでは収穫した米を遠くの精米所まで運んで精米していましたが、PWJからコミュニティに精米機が贈られたおかげで、時間的にも金銭的にも負担が減り、楽になりました。

EAST TIMOR 東ティモール

世界へ広がる東ティモールコーヒー

コーヒー生産者支援は、新しいステージへと踏み出しました。
2013年度は新たに欧州、アジアへの生豆販売や、東ティモール国内のホテル、スーパー、カフェへのコーヒー販売など、販路の開拓を始め、世界のコーヒーファンや地元の人に東ティモールコーヒーの素晴らしさを広めることに力を入れました。
また、PWJが支援するレテフォホのコーヒー農園では、老齢化して味や収穫量が落ちてしまった木が増えたことから、古木の幹の部分を切り落として新芽の成長を促す「カットバック」の効果を生産者に伝える講習会を開き、品質と生産量の維持に向けた取り組みを本格化させました。

現地から

レテフォホ郡ハウプ村ドゥホホ集落のコーヒー生産者
アナクレトさん一家

私は、2003年からピースウィンズのフェアトレードプログラムに参加しています。
それまでは、仲介業者へ安い値段でコーヒーチェリーを販売するだけでした。ピースウィンズがレテフォホで高品質のコーヒーづくりを指導し、私たちから直接コーヒー豆を買ってくれるようになったおかげで、販売収入が増えました。子どもたちも不自由なく生活できるようになりました。

MONGOLIA モンゴル

2013年度も、PWJが運営していた児童保護施設から「ベルビスト・ケアセンター」に引き取られた子どもたちへの支援を続けました。2014年1月現在、3人がセンターで生活しています。

PHILIPPINES フィリピン

台風やモンスーンの被害に対応

2013年11月の台風30号による大きな被害に対応し、緊急支援に取り組みました。過去の洪水支援などでも連携してきた現地のパートナー団体と協力し、まず中部サマール島の5,000世帯に米、豆、魚などの食料や毛布などを配布。2014年1月には隣のレイテ島で、家屋が損壊した690世帯を対象に、材木などの資材と工具類を組み合わせた住居修復キットを配る事業を始めました。

現地から

住居修復キットを受け取ったレイテ島カリガラ町住民
ロメア・マカララグさん（44歳）

台風30号で、自宅はすっかり吹き飛ばされてしまいました。残った瓦礫を集めて自力で再建したものの、成人した娘と息子の家も全壊したため、孫たちを含め3家族が窮屈に同居してきました。
今回、ピースウィンズからの資材で息子夫婦の家を増築することができ、ゆったりと眠れるようになりました。今は、娘家族もPWJからもらったトタンや木材などで家を作り、近所に暮らしています。
家族みんなが新しい住まいで再出発できることがありがたいです。

また、ルソン島では、2013年8月に発生した台風11号とモンスーン被害を受け、現地のパートナー団体と協力して1,550世帯に食料を緊急配布しました。ミンダナオ島南部では、2013年9月に悪化した紛争を逃れて生活する避難民を支援するため、6,988世帯に米を配布しました。

MYANMAR ミャンマー

民主化の進展を受けて、タイのキャンプなどに逃れていた難民がミャンマー国内に戻ってくるのに備え、帰還先の村で安全な水を提供できるよう、給水支援を始めました。2013年9月、タイと国境を接する南東部カレン州の州都パアンに事務所を設置。州内の村落部でニーズなどの調査を行いました。今後、調査結果をもとに井戸の建設や補修を行うほか、地元の人に井戸を清潔に長く使ってもらうための研修も予定しています。

現地から

カレン州の村支援に長年携わっている現地スタッフ
ナン・サン・パン・オーさん

ピースウィンズは、多くの村を訪れ、ニーズ調査を行いながら支援先を決めます。そのため、本当に水が必要な村に支援を行っていると感じます。また、衛生面の知識が浅い村も多いため、衛生向上の講習をしてくれることも、村人はとても喜んでいます。

CHINA 中国

2013年4月に四川省で発生した地震を受け、パートナー団体と協力して被災世帯に衛生用品を配布し、学校・幼稚園計48校には教材などを届けました。

東北

きずな再建が復興を促す

2013年度は生活支援や漁協への支援のほか、長期化する避難生活で失われつつある地域コミュニティのきずなを取り戻すための活動に力を入れました。

宮城県南三陸町では、震災で集う場を失った高齢者・障がい者たちが集える施設の建設事業に着手しました。また、子どもたちが体験を通して、地元のことや社会の仕組みなどを学ぶ講座「わらすこ探検隊」は地元団体に引き継がれました。

同県気仙沼市では、地元の団体と協力して地域の魅力を体感する連続イベントを開いたほか、海や森など自然の恵みを生かした商品の開発などを支援しました。

岩手県陸前高田市では、自主防災会と協力して製作した震災の記録誌を各家庭に配り、地域の防災力の向上に貢献しました。

福島県の原発事故の被災地域では、浪江町にソーラー街灯を設置したほか、広島のNPOなどと協力し、被災した犬や猫の保護活動に取り組みました。

現地から

岩手県陸前高田市広田町の震災記録冊子製作委員会事務局
長野昭文さんと砂田収司さん

時間が経過するにつれ、震災のことがだんだんと記憶から遠のいてしまい、大惨事を忘れてしまいます。震災直後の2011年の夏、どうやって記録を残すのかについて話をしていましたが、誰がどうまとめるのか決まらず、結局何もしないで終わってしまいました。

PWJの協力で、次の世代に伝えるべき貴重な体験談を形として残すことができました。

広島 神石高原

犬の殺処分ゼロと地域活性化を目指して

広島県神石高原町で、災害救助犬とレスキューチームの育成、「セラピー犬」による高齢者施設や学校の訪問を続けました。捨て犬の保護・譲渡活動と合わせて「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトと名付け、活動を展開。広島県が犬・猫の殺処分数で全国ワーストを記録したことを受けて、県内の犬の殺処分ゼロをめざす「1000日計画」を2013年9月に打ち出し、保護・譲渡を本格化させました。

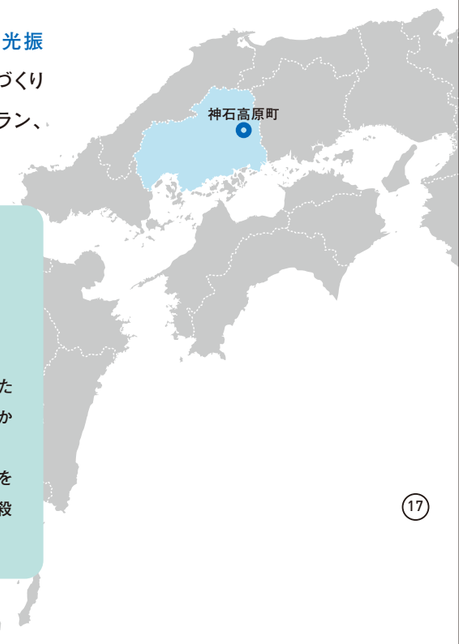
PWJ本部事務所の移転をきっかけに、地域活性化の取り組みも加速させました。観光振興のための子会社を設立し、地元の事業者らによる観光コミュニティパークの計画づくりを支援したほか、イベントの企画・運営にも力を注ぎました。収益事業として、ドッグラン、ドッグホテルの運営や、健康と環境に配慮した食品のカタログ販売を続けました。

現地から

PWJが保護した犬（ナナ・12歳）の里親
志垣利恵さん

愛犬を亡くして約1年後、ナナに出会い、引き取りました。保護犬は野良犬が多い印象がありましたが、実際は犬種も多く、人懐っこい子もたくさんいました。ナナは老犬ですが、その分しつけに手がかからず、性格を楽しみながら毎日一緒に暮らしています。

「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトの活動にも参加し、日本の殺処分の現状や、飼い主は責任を持って最後まで飼う義務があることを知りました。『かわいそう』という気持ちだけでは解決できない殺処分ゼロに取り組むPWJを、これからも応援したいと思っています。



いろいろなご支援

PWJには、どなたでも手軽にご支援いただけるように、さまざまな方法があります。
より多くの方にPWJの活動を知っていただくために、皆さまのご参加を募っております。

ご寄付

各種サポーターになって、継続的にご支援ください。

PWJの活動全般を支援する
「ピースサポーター」月額1,200円～

毎月の継続的なご寄付によって、
災害の被災者や紛争による難民に寄り添い、
長期的に支えていただくご支援の
プログラムです。
年次報告書と季刊ニュースレターを
お送りします。

東ティモールの
コーヒー生産者を支援する
「コーヒーサポーター」月額500円～

1回の寄付からでも

支援をしたい時に
寄付額や支援目的を
選ぶことができます。

保護犬を支援する
「ワンだふるサポーター」
月額1,000円～

寄付控除の対象です
PWJは「認定NPO法人」として
国税庁に認可されています。
これにより、PWJへのご寄付は
寄付金の税金控除の対象となります。
※正会員会費は対象外です。

その他のご寄付

ブックキフ

ブックオフコーポレーションの協力により、
不要になった中古本やCDを無料集荷の上、
買取金額がPWJに寄付されます。

BOOK・OFF

ハガキフ

書き損じハガキや未使用切手をPWJへお送りください。
切手に交換し、事業で活用させていただきます。

スマートフォンで「かざして募金」

ソフトバンクモバイル株式会社の協力により、
アプリを使って手軽に寄付ができる
「かざして募金」に参加。
2014年3月から運用が始まりました。

かざして募金

他にも、インターネット募金、クリック募金、
ギフトカタログで選ぶPWJチャリティギフト、
飛行機のマイレージ寄付などがあります。
詳しくは、PWJのホームページから「寄付する」のページを
ご覧ください。

ボランティア

現在ボランティア登録数は152名。
学生・社会人・主婦・シニア世代など、さまざまな方がボランティアをしています。
平日の事務所での作業（フェアトレード商品のラッピング等）や、アースデイなどのイベントのお手伝い、保護犬の飼育のお手伝い等、ご都合に合わせてご参加いただいています。
また、翻訳、デザイン、ライティング等、職業上持っている知識やスキルを活かして社会貢献するボランティア活動（プロボノ）をされる方もいます。

ご寄付は大切に使います

皆さまからのご寄付は、世界中の支援を必要としている人々のために大切に使わせていただきます。2013年度は、全寄付収入のうち89.4%を事業費に、10.6%を管理費に使わせていただきました。

企業や団体の皆さまからのご支援

PWJでは設立当初より企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、連携を重視してきました。
今後も企業や団体の特色とリソースを活かした協業について、さらに可能性を広げていきたいと考えています。

職場やイベントで

コーヒー販売会を実施

企業や団体の社会貢献活動として、東ティモールで支援する生産者から届くフェアトレードコーヒーやその他商品の社内販売会を、職場やイベント会場で実施しています。2013年度は、9社にご協力いただきました。

企業特性を活かした支援

不要になったスーツやかばん・シューズなどの買取額を寄付、貯まったポイントを寄付に交換、商品の売り上げの一部を寄付など、企業のもつ流通や販売チャネルなどを活かした支援をいただきました。

東北被災地で

子ども向け講座を開催

宮城県南三陸町の子どもたちに町のことや町の外のことを学ぶ場を提供する「わらすこ探検隊」（旧ふるさと学習会）では、2012年の開始以降15社にご協力をいただき、「企業先生」として講師を務めるなどしていただきました。2013年は17回の「企業先生」講座を開催。本業を活かした多様な講座で、子どもたちの興味を引き出しました。

2013年度高額寄付企業・団体

アピデ株式会社／株式会社エクスパンド／株式会社NTTデータ／NGOサポート募金（運営：JANIC）／KIEHL'S SINCE　1851（キールズ）／ギフコ株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／社会福祉法人クピド・フェア／ジェイワード株式会社／JX日鉱日石エネルギー株式会社／J.S.Foundation／シャディ株式会社／高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン実行委員会／TENSEISHINBIKAI　岡田茂吉研究所／東栄産業株式会社／東北子ども未来公演 presented by JFS & 日本興亜損保／日興AM従業員チャリティプログラム（日興アセットマネジメント株式会社）／バカラ／公益財団法人パブリックリソース財団／フィアット　クライスラー　ジャパン／株式会社藤田商店／ブックオフコーポレーション株式会社／公益財団法人毎日新聞東京社会事業団／丸中製菓株式会社／三井化学株式会社／三菱樹脂株式会社／三菱電機関連労働組合連合会／特定非営利活動法人メタボランティア／株式会社メディコム／Yahoo! ネット募金／株式会社有隣堂／UBSグループ（UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店、UBSグローバル・アセット・マネジメント株式会社）／株式会社ユナイテッドアローズ／株式会社ロワール／株式会社ワットマン（50音順）

※20万円以上／社員や顧客などの寄付を集約・代行して入金された金額を含みます。

メディア掲載

【3月】「日経Bizアカデミー」で代表理事・大西が紹介／「国際開発ジャーナル3月号」に南スーダン駐在スタッフ田中が掲載／「三陸新報」にふるさと学習会が掲載【4月】「朝日新聞」にPWJの福島第一原発事故被災者移住受け入れ計画が掲載／「三陸新報」に東北写真展が掲載【5月】「著名人が語るオリンピック・パラリンピック」に代表理事・大西が掲載【6月】「日経ビジネスオンライン」に代表理事・大西の活動が紹介【7月】「河北新報」「三陸新報」に東北支援事業「Re;usWorld」が掲載【9月】「中国新聞」で犬・猫保護の活動を紹介／TOKYO　FM系「中西哲生のクロノス」にピースワンコ・ジャパン事業スタッフ大西が出演／「三陸新報」に子ども向け化学実験教室「ふしぎ探険隊」が掲載【10月】「朝日新聞」に代表理事・大西のコラムが掲載／「読売新聞」にイラク駐在スタッフ深川が掲載／「東京新聞」で「殺処分ゼロ1000日計画」が紹介／「東海新報」「岩手日報」に震災記録誌贈呈式が掲載【11月】「読売新聞」「毎日新聞」「中国新聞」などにフィリピン台風被災者支援活動が掲載／「中国放送」で災害救助犬育成・保護犬事業を特集【12月】「読売新聞」にフィリピン担当スタッフ奥村が掲載【1月】「ソトコト1月号」に東北駐在スタッフ角免の対談が掲載／NHK「クローズアップ現代」で代表理事・大西が紹介

PWJのフェアトレード事業

2003年より始まった東ティモールでのコーヒー生産も、11年目を迎えました。
今年もコーヒーを多くの方に届けると同時に、フェアトレードを広める活動に力を入れました。

ピースコーヒーを楽しめるお店が増えています

品質やストーリーにこだわりをお持ちの全国の自家焙煎店にコーヒー豆のサンプルを送ったところ、予想を上回る反応をいただきました。「早速試飲してみたらとても美味しくてびっくりした。お店でぜひ取り扱いたい」「東ティモールのコーヒーは飲んだことがなかったが、こんなに美味しいとは知らなかった」などの嬉しいコメントとともに、全国の自家焙煎店からご注文をいただいています。2014年1月現在、取扱店は全国200店舗を超えました（イートイン可の店舗あり）。こうして、味で評価いただくことができ、これまで品質を高めるために試行錯誤してきたことがようやく実を結んできたことを実感します。ぜひ、いろいろなお店で東ティモールの味をお楽しみください。

◀取扱店で使われているPOP広告

エコプロダクツ2013に出展しました

毎年12月に開催される日本最大級の環境展示会『エコプロダクツ2013』に初出展しました。2,500を超える企業・団体が出展し、17万人が参加した展示会は、普段出会うチャンスが少ないさまざまな業種の方と直接お話しし、コーヒーを飲んでいただく機会となりました。
生産者と時間をかけ、二人三脚で作り上げたピースコーヒーは、有機JASマークも取得しており、企業のCSR担当者や環境に負荷をかけない商品を探している商品企画担当者の方に、魅力的な商品として受け入れていただきました。今後の発展にご期待ください。

フェアトレード授業

フェアトレードをテーマとした講演依頼をいただく機会が増えてきました。選択授業で「国際協力」を選んだ高校生への授業や、朝礼で全校生徒に向けて行う講演、授業の一環としてPWJ事務所を訪れる大学生など、フェアトレードに関心を持つ学生が増えているようです。
未来を担う若い世代が、途上国やフェアトレードの仕組みについて知ることはとても重要なことなので、今後も継続したいと思っています。

Pontaポイントでの交換も

ギフコ株式会社のご協力で、ギフトカタログに初めてピースコーヒーが掲載されました。また、ローソンPontaカードのポイントがピースコーヒーに交換できるようになりました。

フェアトレードとは　経済的・社会的に立場の弱い生産者に対して通常の国際市場価格よりも高めに設定した価格で継続的に農作物や手工芸品などを取引し、発展途上国の自立を促すことが目的。取引価格以外にも、生産者の労働条件や環境にも配慮した取り組みが求められます。

PWJについて

活動年表

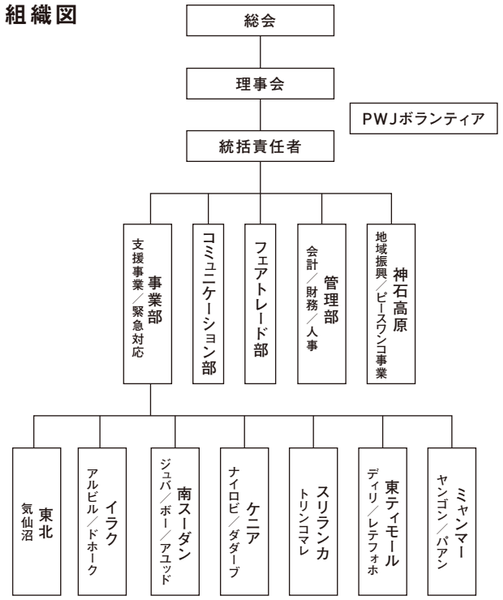
1996	2	ピースウィンズ・ジャパン設立
	3	イラク北部クルド人自治区で支援事業を開始
	8	モンゴルで支援事業を開始
1997	11	インドネシアで支援事業を開始
1999	4	旧ユーゴスラビア・コソボ自治州で緊急支援（～2000年3月）
	9	中国雲南省チベット人自治州で支援事業を開始（～2007年1月）
	10	東ティモールで支援事業を開始
		NPO法人格を取得
2001	1	インド西部震災支援（～2001年9月）
	4	シエラレオネで支援事業を開始（～2007年3月）
	11	アフガニスタンで支援事業を開始
	12	アフガニスタン復興NGO東京会議を開催
2003	4	イラク・クルド人自治区外に支援を拡大
	12	イラン・バム震災緊急支援（～2006年2月）
2004	3	リベリアで支援事業を開始（～2010年2月）
	10	新潟県中越地震緊急支援（～2004年11月）
	12	インドネシア・スマトラ島沖地震・津波緊急支援（～2006年3月）
2005	3	静岡県袋井市と「災害時の支援協定」を締結
	9	アメリカ・ハリケーン被災者緊急支援
	10	パキスタン北部地震緊急支援（～2006年5月）
2006	3	東京都葛飾区と「災害時の支援協定」を締結
	5	東京都世田谷区と「災害時の支援協定」を締結
	8	南スーダンで支援事業を開始
2007	7	新潟県中越沖地震緊急支援（～2009年8月）
2008	5	ミャンマー・サイクロン被災者緊急支援（～2009年8月）
2009	7	スリランカで支援事業を開始
2010	1	ハイチ地震緊急支援を開始（～2012年7月）
	3	国税庁により「認定NPO法人」に認定
	11	広島県神石高原町にて災害救助犬の育成事業を開始
2011	3	東日本大震災被災者支援を開始
	4	広島県神石高原町に「災害救助犬訓練センター」を開設
2012	2	ケニアでソマリア難民支援を開始
	8	フィリピン洪水緊急支援
		ニジェール食糧危機緊急支援
	11	イラクでシリア難民支援を開始
	12	フィリピン台風ボーファ緊急支援
2013	4	中国四川省で四川地震被災者支援
	5	ミャンマーのカレン州で帰還支援を開始
	6	シリア紛争人道支援を開始
	8	フィリピン・ルソン島で洪水支援
	9	フィリピン・ミンダナオ島で紛争避難民支援
	11	フィリピン台風緊急支援を開始

団体概要

2014年1月末現在

名称	特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン
設立	1996年2月
法人格取得	1999年10月
事務局有給職員数	52人
役員 代表理事	大西　健丞
理事	木村　町子
	三宅　登志子
	石井　宏明
	桑名　恵
	山本　理夏
監事	清水　雄二

組織図



ビジョン

人びとが紛争や貧困などの脅威にさらされることなく、希望に満ち、尊厳を持って生きる世界をめざします。

ミッション

- 紛争や自然災害などにより、生命が脅かされている人びとに対し、迅速に緊急人道支援を行います。
- 社会的基盤の崩壊などにより、困窮している人びとに対し、自立のための復興・開発支援を行います。
- 支援地での活動を通じ、紛争の予防および解決に取り組みます。
- 支援の必要性に対する情報を発信し、市民の関心を喚起します。
- 援助システムをより効果的にするための提言を行い、その改善に取り組みます。

2013年度 会計報告

収支計算書 2013年2月1日～2014年1月31日

経常収入の部	円	構成比
特定非営利活動に係る事業		
会費収入	47,171,100	1.9%
一般寄付金収入	43,036,552	1.7%
特定目的寄付金収入 ①	56,325,944	2.3%
物品・現物等寄付収入	3,946,456	0.2%
政府からの補助金収入	275,358,646	11.0%
国際機関からの補助金収入 ②	669,976,360	26.8%
民間助成金収入	591,075,076	23.6%
業務受託収入	6,266,302	0.3%
フェアトレード事業収入	78,733,245	3.1%
その他事業収入	9,762,059	0.4%
その他収入（保証金返還収入、受取利息、雑収入等）	9,218,049	0.4%
小計	1,790,869,789	
その他の事業		
収入	14,233,172	0.6%
当期収入合計	1,805,102,961	
前期からの繰越金 ③	695,267,154	35.0%
経常収入の部合計	**2,500,370,115**	

経常支出の部	円	構成比
特定非営利活動に係る事業		
1.自然災害や複合危機に対する緊急人道支援		
イラク／シリア事業	568,106,574	22.7%
アフガニスタン事業	38,284,655	1.5%
南スーダン事業	131,630,399	5.3%
スリランカ事業	56,955,063	2.3%
ケニア事業	250,699,644	10.0%
ニジェール事業	35,776,213	1.4%
フィリピン事業	38,186,288	1.5%
中国事業	36,888,182	1.5%
ミャンマー事業	19,846,845	0.8%
災害救助犬等育成事業	34,047,228	1.4%
東日本大震災支援事業	180,399,206	7.2%
事業共通費	17,502,822	0.7%
2.フェアトレードを含む、自立のための復興・開発支援		
東ティモール事業	18,840,666	0.8%
フェアトレード事業	103,872,664	4.2%
モンゴル事業	288,611	0.0%
地域再生パイロット事業	20,918,072	0.8%
3.社会システムをより効果的にするための提言およびその改善		
犬猫保護事業	42,246,166	1.7%
4.広報並びに募金活動	70,433,446	2.8%
事業費計	1,664,922,744	
管理費	56,420,412	2.3%
その他支出（固定資産購入支出、助成金返還額など）	127,130,130	5.1%
小計	1,848,473,286	
その他の事業		
支出	14,233,172	0.6%
当期支出合計	1,862,706,458	
次期への繰越金 ③	637,663,657	34.6%
経常支出の部合計	**2,500,370,115**	

① 特定目的寄付金収入の内訳

イラク／シリア事業	2,537,152
モンゴル事業	17,000
東ティモール事業	320,032
ケニア事業	339,104
東日本大震災支援事業	35,656,162
南スーダン事業	1,266,545
スリランカ事業	133,916
犬猫保護事業	8,899,248
災害救助犬等育成事業	199,416
中国事業	53,000
ニジェール事業	5,000
フィリピン事業	6,898,369
ミャンマー事業	1,000
合計	56,325,944

② 2013年度に補助金、助成金、業務委託を受けた主な団体
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）
MercyCorps
外務省
The JTI Foundation
国連児童基金（UNICEF）
国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

③ 前期からの繰越金・次期への繰越金には、補助金、助成金、業務委託、特定目的寄付金等の未使用分を含みます。

貸借対照表 2014年1月31日現在

単位:円

科目		特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計
Ⅰ 資産の部				
1.流動資産	現金預金	391,980,088	0	391,980,088
	海外現金預金	245,583,148	0	245,583,148
	売掛金	3,097,377	257,428	3,354,805
	商品	53,852,081	898,289	54,750,370
	未収入金	3,341,087	0	3,341,087
	「その他の事業会計」立替金	36,128	0	36,128
	立替金	2,935,211	0	2,935,211
	前払金	1,703,959	0	1,703,959
	仮払金	23,724,820	0	23,724,820
	前払費用	289,257	0	289,257
	流動資産合計	726,543,156	1,155,717	727,662,745※
2.固定資産	建物	39,542,724	0	39,542,724
	建物付属設備	16,224,302	573,597	16,797,899
	構築物	7,047,854	0	7,047,854
	車両運搬具	14,094,570	0	14,094,570
	工具器具備品	4,233,914	0	4,233,914
	機械装置	433,700	0	433,700
	生物	1,104,182	0	1,104,182
	土地	500,000	0	500,000
	リース資産	9,970,885	0	9,970,885
	建設仮勘定	57,689,636	0	57,689,636
	電話加入権	385,392	0	385,392
	商標権	593,859	0	593,859
	ソフトウェア	1,616,333	0	1,616,333
	子会社株式	4,500,000	0	4,500,000
	敷金・保証金	5,518,430	0	5,518,430
	固定資産合計	163,455,781	573,597	164,029,378
資産の部合計		**889,998,937**	**1,729,314**	**891,692,123**※

科目		特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計
Ⅱ 負債の部				
1.流動負債	未払金	11,423,738	0	11,423,738
	未払法人税等	0	221,300	221,300
	預り金	13,250,860	0	13,250,860
	「特定非営利活動に係る事業会計」仮受金	0	36,128	36,128
	流動負債合計	24,674,598	257,428	24,932,026※
2.固定負債	退職給与引当金	8,999,100	0	8,999,100
	リース債務	10,352,820	0	10,352,820
	固定負債合計	19,351,920	0	19,351,920
	負債の部合計	44,026,518	257,428	44,283,946※
Ⅲ 正味財産の部				
正味財産		845,972,419	1,471,886	847,444,305
［うち当期正味財産増加額］		△21,466,857	40,770,332	19,303,475
正味財産の部合計		845,972,419	1,471,886	847,444,305
負債及び正味財産の部合計		**889,998,937**	**1,729,314**	**891,728,251**※

※内部取引36,128を差引いています。

PWJは、高塚公認会計士事務所・
青木幹雄公認会計士事務所による外部監査を受けております。

独立監査人の監査報告書

平成26年3月27日

特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン
代表理事 大西 健丞 殿

高塚公認会計士事務所
公認会計士 高塚直子

青木幹雄公認会計士事務所
公認会計士 青木幹雄

私たちは、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの平成25年2月1日から平成26年1月31日までの第19期事業年度の下記の計算書類等について監査を行った。

記

1．特定非営利活動に係る事業の収支計算書、正味財産増減計算書及び貸借対照表
2．その他の事業の収支計算書、正味財産増減計算書及び貸借対照表
3．収支計算書総括表
4．正味財産増減計算書総括表
5．貸借対照表総括表
6．特定非営利活動に係る事業の財産目録、その他の事業の財産目録

この計算書類等の作成責任は理事者にあり、私たちの責任は独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに計算書類等に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類等の表示を検討することを含んでいる。私たちは、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

私たちは、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる特定非営利活動法人会計の基準に準拠して、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの第19期事業年度の収支及び正味財産増減の状況並びに同事業年度末日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンと私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上